a local story 岡崎 まちものがたり

2016.7.1 100th ANNIVERSARY OKAZAKI 岡崎市制施行100周年

20

しょうだ
生田ボタルは美合の宝

美合学区

MIAI

ホタルに学ぶ子どもたち

平松 紗英さん（小学５年／平成28年度）

「美合学区は、ホタル飼育が伝統として長く受け継がれている」私はこのことを、ホタル資料室にある紙芝居で知りました。その紙芝居には、ホタルの飼育に成功した栗田さんの努力もかかれていました。私は、栗田さんの努力と美合小の伝統を受け継いで、ホタルを育てていきたいです。

植田 大己くん（小学６年／平成28年度）

ホタル飼育部の活動を通して、命の重みや自然の大切さを知ることができました。「美合の宝」であるホタルが山綱川でたくさん見られるように、これからも学区の方と力を合わせてホタルの保護活動に取り組んでいきます。

堤 春乃さん（小学６年／平成28年度）

ホタル飼育部に入って、ホタルが山綱川でたくさん見られるようにするためには、川の水質だけでなく、周りの環境も考えて、保護活動をしないといけないことを知りました。私はホタルが増えるように、川の環境をよくしていきたいです。

皆瀬 勇治くん（中学１年／平成28年度）

「ホタルの幼虫、上陸しているかな」山綱川の堤防で咲く桜を眺めながら，僕は毎年そんなことを考えます。４月に水中から命がけではい上がり、土手でさなぎになったホタルは、６月には成虫となって、光の舞いを見せてくれます。生田ボタルは美合の宝。いつまでも初夏に彩りを添えられるように、守っていきたいです。

「生田ボタル保護活動クイズ」の答え
第１問②　約50種のうち半分程度が光ります。私たちが保護している生田ボタルは、強い光を放つゲンジボタルのことで“生田”は山綱川、竜泉寺川流域の地名です。
第２問③　生まれたばかりの幼虫は体長2mmほどしかありません。幼虫は大きなカワニナを捕食できないため、幼虫と同じくらいの大きさのカワニナを与えています。
第３問②　ヒルは大きいものだと体長5cmほどあります。ヒルを１匹ずつ取り除くことが、僕たちにとって大切な活動のひとつです。

a local story 岡崎 まちものがたり

編集後記

美合学区といえば“生田ボタル”。そのため全編にわたってホタルについてご紹介しました。今回の作成にあたり、地域の歴史資料が少ないことが一番の苦労でした。私たちにとって身近な「生田城」ひとつをとっても、詳細な資料は残っておらず、こうして町の歴史を記録に残すことはとても大切なことと感じました。生田ボタルの歴史を振り返ったことで、改めて先人の思いを受け継ぎ、これからもホタルの学区として地域を盛り上げていきたいと思います。

〔作成委員会〕　戸松久／森勝之／宮﨑倉治／近藤勇雄／石原正明／清水貞三／柴田敏幸／吉田信
〔参考資料〕国指定天然記念物岡崎ゲンジボタル 保護・研究活動の歩み／美合小学校百年史／写真が語るあの時、この時
〔協力〕古田忠久／美合小学校
〔表紙写真〕　山綱川に飛び交う生田ボタルと、引き継がれる蛍音頭（平成28年、昭和50年［左下］、昭和30年代［右下］）

岡崎市制100周年記念事業
岡崎まちものがたり　20 美合学区まちものがたり　発行　2017年１月

6 創立100周年を記念した空撮。デザインはやっぱりホタル！

5 山小屋風のホタル飼育室。温度管理がしやすくなったと喜ばれた

4 葵博-岡崎'87の全景。岡崎市市制70周年記念として開催された博覧会

3 小学校の第1回目の放流。これから現在まで活動が続いている

2 絵画や工作の体験もできる親子造形センターを併設

1 生田蛍の家。井戸水を使用し、自然に近い環境が自慢の飼育施設

大きなポプラの木が目印となっていた、昭和27年の美合小学校

大正15年の開通当時の愛知電気鉄道（名古屋鉄道の前身）美合駅

ホタルを守る美合学区のあゆみ

■学区の出来事
■ホタル保護活動

- 一八七五年■明治8　岡村学校創立
- 一九〇八年■明治41　額田郡美合尋常小学校を開校
- 一九二八年■昭和3　町村合併により、岡崎市立美合尋常高等小学校となる
- 一九三五年■昭和10　岡崎ゲンジボタル発生地として、乙川、鉢地川、竜泉寺川、山綱川が国の天然記念物に指定
- 一九四〇年■昭和15　「天然記念物岡崎ゲンジボタル発生地」の石柱と制札が完成
- 一九四八年■昭和23　「蛍音頭」、「美合ほたる音頭」ができる
- 一九五〇年■昭和25　生田蛍保存会が結成される
- 一九五四年■昭和29　美合小学校に校歌「美合の子」が制定される
- 一九五八年■昭和33　美合学区の「蛍まつり」が盛り上がる（昭和45年まで続く）
- 一九五九年■昭和34　ホタルの人工養殖を開始
- 一九六〇年■昭和35　岡二区（名鉄住宅）造成
- 一九六二年■昭和37　栗田俊一郎氏がホタルの人工養殖に日本で2番目に成功
- 一九七四年■昭和49　なかよしトンネル完成（国道1号）
- 一九七六年■昭和51　美合小学校卒業生である三浦直子さんの水泳・背泳ぎでのオリンピック出場を記念し、体育奨励基金を設立
- 一九七八年■昭和53　美合小学校にホタルの人工養殖場と「生田蛍の家」完成…1
- 一九八〇年■昭和55　美合小学校に蛍舎用井戸完成（この年にホタルのエサとなるカワニナの養殖場（第1カワニナ池）が拡大移設されました）
- 一九八一年■昭和56　美合小学校のホタル飼育クラブが市教育委員会より表彰
- 一九八三年■昭和58　美合小学校に第2カワニナ池が完成して一令（いちれい）幼虫1万8千匹孵化に成功し、岡崎竜城ライオンズクラブより表彰（第3カワニナ池は、翌年（昭和59年）に完成しました）
- 一九八五年■昭和60　おかざき世界子ども美術博物館が開館…2
- 一九八六年■昭和61　美合小学校が愛知県芸術文化選奨に選ばれ、文化奨励賞を受賞
- 一九八七年■昭和62　山綱川に第1回目の放流。山綱川に生田蛍が30年ぶりに復活する（以後、毎年放流）。学区全戸加入の「生田蛍保存会」再結成…3
- 一九八八年■昭和63　美合小学校ホタル飼育部が第14回岡崎市教育文化賞と、愛知県環境美化推進実践活動コンクール優良賞を受賞
- 一九八九年■平成1　葵博-岡崎'87開催…4　美合小学校にホタル飼育室完成…5（第4カワニナ池も完成しました）
- 一九九三年■平成5　美合小学校に「ホタル資料館」完成
- 一九九九年■平成11　ホタル人工養殖施設へ山綱川の水を引き込む工事が終了
- 二〇〇二年■平成14　環境庁による「ふるさといきものの里100選」に、岡崎市（小動物生息環境保全地域＝岡崎ゲンジボタル発生地）が選定される
- 二〇〇八年■平成20　美合小学校が第1回全国小中学校環境教育奨励賞を受賞
- 二〇一五年■平成27　第1回「クリーンアップ・ホタル川」開催
- 美合小学校が野生生物保護実績発表大会愛知県教育委員会賞を受賞（翌年（平成15年）には県知事賞を受賞し、平成27年には野生動物保護功労者表彰にて林野庁長官感謝状を受領しました）
- 美合小学校が「開校100周年記念式典」を開催…6
- 東部学校給食センター完成

美合学区の特色

岡崎市中心部から南東約5㎞に位置する美合学区。北側は乙川、南西側は名鉄本線を境に、南東側は藤川・生平学区と接しています。美合町（旧生田村・和合村）、岡町、保母町の3町を、保母町、岡町、岡二区、美合西、美合東、生田西、生田東の7区で構成しています。

学区内を旧東海道である国道1号や東名高速道路が貫き、美合町を中心とした住宅地、岡町や保母町を中心とした農業地帯のほか、工場や学校がバランス良く点在しており、環境に恵まれた住みやすい地域です。

そして美合学区は**ホタルの学区**としても知られています。昭和10年、乙川、鉢地川、竜泉寺川、山綱川がゲンジボタルの発生地として国の天然記念物に指定されたことで、そのホタルのイメージが一気に広がりました。一時期減少したホタルは、学区全戸が加入する「生田蛍保存会」の保護活動、美合小学校「ホタル飼育部」の養殖・放流活動などによって守られています。毎年、初夏には山綱川でホタル観賞会も開かれ、地域の人たちが楽しみにしています。

注目の施設としては、世界の巨匠の幼き日の絵画を所蔵する「おかざき世界子ども美術博物館」があります。ここでは約50年前に始まった「造形おかざきっ子展」を開催しています。これは市内の幼稚園・小学校・中学校全児童・生徒が制作した作品約3万5000点を展示する企画で、毎年大勢の人で賑わいます。

また生田城跡、岡城跡、姫ヶ城跡と城跡が3か所もあり、古くから栄えた歴史ある地域であることも自慢のひとつです。

美合橋から眺める春の山綱川

DATA

□人　口　6,603人
男性　3,310人
女性　3,293人
□世帯数　2,726世帯
□面　積　6.57㎢
［2016年7月1日現在］

美合学区まちものがたりマップ

東名高速道路、国道1号、名鉄本線が通る生活の町であり、5本の河川が流れる自然に恵まれた環境でもある美合学区。ホタル観賞はもちろん、神社仏閣、史跡などにも訪れてみてください。

A 天然記念物岡崎源氏蛍発生地の碑
昭和14年に設置。山綱川の川岸に建てられている

B 瓶井神社
鉢地川と乙川との合流点から東名高速道路を挟んで鎮座する

D 日吉神社
地域の氏神様。秋の大祭は10月の第1日曜に開催

E 船山神社
前方後円墳のような形をした、こんもりした丘の上に鎮座している

C 瓶井神社の大ケヤキ
樹高26m、幹回り6.2m、根回り8.5mの大ケヤキ。岡崎市の天然記念物に指定されている

G 生田城跡
田んぼの真ん中にある生田城跡

F 岡城跡
土塁などを残す岡城跡の石碑

H 姫ヶ城跡
見晴らしの良い姫ヶ城跡。通称「稲荷山」と呼ばれる小高い山の上にある

COLUMN 古城めぐり

池野太学によって築かれたとされる岡城、大江定基（おおえさだもと）と力寿姫（りきじゅひめ）の悲恋物語が偲ばれる姫ヶ城、経緯不詳ながら徳川家康と関係があったとされる生田城。学区内には三つの城跡があります。

ホタルを見に行こう！

毎年6月上旬に飛び交う山綱川のホタル。観賞会が開かれているほどのスポットながら岡崎では穴場的な存在。観賞に行く場合は、ホタルを車のライトなどで照らさないように岡町駐車場を利用してくださいね。

見ごろ：午後8時～10時頃
場　所：山綱川の万城橋から岩之瀬橋の間（約500m）
駐車場：岡町駐車場を利用（徒歩5分）

美合学区の誇り

生田ボタル

国の天然記念物指定へ ～賑わいから危機へ～

江戸時代より「生田蛍」と名付けられたゲンジボタルが大量に発生することで有名だった美合地域。東海道を往く旅人の目も楽しませていたそうです。

昭和になって農薬使用、都市開発、ホタル見物客の増加などが影響し、その数が激減しました。これに危機感を持った地元の人たちが市長に訴え、昭和9年に国の天然記念物に申請し、昭和10年に晴れて指定されたのでした。これを受けて青年団の巡回監視などが行われ、地区を挙げてのホタルの保護が始まりました。昭和25年には生田蛍保存会が発足し、保護の研究や、盛大な蛍まつりも行われるようになりました。しかし、住民の熱い思いにもかかわらず、ホタルの減少に歯止めはかからなかったのです。

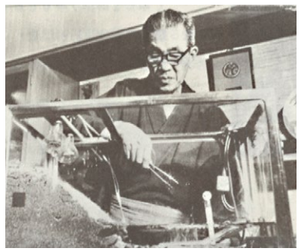
蛍まつりの様子。中央に生田蛍塔が建てられた美合駅前の広場で行われ、多くの人で賑わっていた（昭和 20 年代）

山綱川の川岸にテーブルを備えるなど、ホタル見物に興じる人々の様子がうかがえる（昭和 20 年代）

試行錯誤しながら 進化を続けた養殖技術

昭和34年、美合郵便局長であった栗田俊一郎氏が人工養殖の研究を開始し、昭和37年に成功を遂げました。そして昭和38年には、美合橋付近で初めての放流が行われました。

次に大切だったのは、この技術を研究・確立し、受け継いでいくこと。昭和41年、栗田氏は河合中学校理科部にホタル飼育を勧めたそうです。その部を率いたのが、当時赴任したばかりの古田忠久先生でした。700匹の幼虫が1週間で全滅してしまった経験などから、先生はホタルの研究に没頭しました。昭和53年、活動の流れを受けて美合小学校にホタル人工養殖場が完成し、ホタル飼育部も誕生しました。カワニナ養殖場などの設備も充実し、古田先生を中心に技術が確立されていったのです。


自宅に装置を設置して研究をする栗田俊一郎氏

美合小学校ホタル飼育部の「生田ボタル保護活動クイズ」

第1問
日本には約50種類のホタルがいますが、ホタルは全部光るでしょうか？
①全部光る
②光らないものもある

第2問
ホタルの幼虫は何を食べて育つのでしょうか？
①ヒル ②メロン ③カワニナ

第3問
カワニナ池でカワニナを食べてしまう生き物はなんでしょう？
①人 ②ヒル ③魚

▷生田ボタル（ゲンジボタル）

カワニナ△

△幼虫

※答えは8ページにあります

△ホタル放流会（9 月下旬、山綱川にて）

人々の思いを乗せた保護活動の今

養殖技術は進化したものの、自然が相手のホタル保護活動には未知の部分がたくさんあります。今までの積み重ねから学んだ地道な活動が重要であり、調査・研究・保護の一翼を美合小児童が担ってくれています。また全戸が保存会会員である美合学区では、毎年8月に「クリーンアップ・ホタル川」を開催し、地域ぐるみで山綱川を清掃する保護活動を行っています。

▷ホタル飼育部をはじめ、美合小の児童がホタル保護活動を支えている

ゲンジボタルの御宿を訪ねて50年の旅

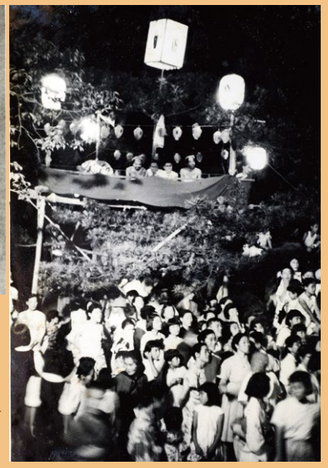
「ハイ、電話を替わりました。古田です。おかげ様で700匹の幼虫たち、みんな元気です」電話を切って、正気に戻った。1週間前に700匹の幼虫たちは、姿を消していたのである。全てがホルマリンの瓶の標本の姿に変身していたのである。栗田先生にこの世で、最大のウソをついたのである。乙川や男川に生息する幼虫たちの助けをお願いするしかない。翌日からのクラブ活動は胴長靴に箱眼鏡の身支度で乙川に横一列に並び、川底にいる生き物は全て採取する作戦を展開した。10月のある日、「先生、カワニナに変なムシがついてるよ。見てください」「ありがとう、ゲンジボタルの幼虫だ」と、この作戦で80匹の幼虫を手にした。10月末、栗田先生が来校した。「古田君。飼育が上手いじゃないか」「ハ、ハ、ハイ」700個の魂に後押しされ、世界最大のウソを謝罪するのに50年が経ったのである。

全国ホタル研究会顧問
古田忠久 さん

ホタルに魅せられて

ホタルの養殖に力を注いだ栗田俊一郎氏や古田忠久先生はもちろん、ホタルに魅せられた人々は、さまざまな活動を生み出しました。たいまつ行列や蛍音頭が行われた蛍まつりはその代表的なものでした。祭りが開催されなくなった今も蛍音頭は地域で受け継がれています。また保存会結成当時のメンバーでもあった宮﨑昇三氏は8ミリフィルムでホタルを撮影。「ゲンジボタルの生態」と題した貴重な記録映像を残しています。

△宮﨑昇三氏


蛍音頭▷
昭和 30 年代に蛍まつりで賑わう様子